

エジプト産柑橘類は紅海の危機で南北アメリカと欧州へ

ブラジルとカナダでエジプト産柑橘類の輸入が増加

[FreshPlaza](#) 2024年3月6日

紅海の危機により、エジプトの柑橘類輸出業者がアジアで直面している困難は、他の市場を開拓する原動力になっていると、フルーツファーム社(エジプト)の輸出部長であるアムル・カダー氏は述べている。(以下「」は同氏の発言)

「アジア市場は、湾岸諸国、ヨーロッパ、ロシアと並んで、エジプト産柑橘類の主要な輸出先である。我々は、東アジア市場と中国に代わる輸出先を見つけるために多大な努力を払った。幸いなことに今年は品質が大変良いことに助けられており、サイズ分布も昨年に比べて大幅に改善し、出荷量も年ごとに増加している。」

「今シーズンは、ブラジルとカナダという2つの新市場が特にダイナミックで、かなりの量を引き取っていることに注目している。」

エジプトは、ほとんどの輸出市場でスペイン、トルコ、モロッコとの競争に直面しているが、近年の穏やかな気象条件とより競争力のある価格の恩恵を受けている。「当社のオレンジは現在400~450米ドル/トンの輸出単価(FOB)で販売され、ヨーロッパへの着荷時で600米ドルまたはそれ以下であり、この価格は取引先にとって大変有利である。」

「弊社では現在、バレンシアオレンジ、マーコット、アダリアレモン及びマンダリンを販売しており、すべての同僚達に順風が吹くことを願っている。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

ポーランドは今年スペインとエジプトから柑橘類を輸入

[FreshPlaza](#) 2024年3月6日

ポーランドの青果物販売業者ベニーフルーツ社の共同創業者であるイギット・アスラン氏は、輸入柑橘類が例年と異なる原産地から入っており、異例のシーズンになっていると言う。(以下「」は同氏の発言)

「柑橘類市場は予想通りには展開していない。悪天候のため、最近では柑橘類の売り上げが減っている。ポーランドの消費者は現在、皮がむきやすいマンダリンやオレンジを好む傾向にある。柑橘類の主な調達先は従来トルコであったが、今シーズンはトルコ産の価格が高騰したため、調達先を変更した。それはすなわち、今年ではスペインとエジプトから輸入しているということだ。」

トルコ産の農産物は値段が上がっているが、今シーズンはもっと安い選択肢が出てきたとアスラン氏は説明する。「今シーズンの我々の苦戦状況を見ると、これらの問題は主に商品の価格設定に関係するものだ。既に述べたように、この問題を解決するために他の原産国から調達することを選択しており、今シーズンはそれ以外の問題には遭遇していない。品質やサービスに関するすべてのことが実に良好であった。」

紅海の危機により、エジプト産の柑橘類がアジアに輸出されなくなったため、それらの果実は現在ヨーロッパ市場で見られるようになり、価格と需要に影響を与えている。

「エジプト産の柑橘類が洪水のように市場に溢れたことは、トルコやスペインなどの他の輸出国に間違いなく影響を与えている。価格面に加えて、エジプトの柑橘類市場は、農薬残留基準(MRL)の遵守と堅牢なトレーサビリティ対策により、称賛に値する品質基準を誇っている。その結果、ヨーロッパ市場では激しい競争が繰り広げられ、価格は近年のシーズンに比べて全体的に下落している。」

執筆者: ニック・ピーターズ